

(翻刻)

宝暦二壬申年五月、

酒井修理大夫京都諸司代(所)ニ御成被成候、

当国ノ殿様也、(讃岐)さぬきの頭

京ノ町人落首

よいさかい(酒井) 京に(小吉)こごとを いハ(吉)さぬき

ぶんご(豊後 紋)しぼりの 跡ハ(城代)じやうだい

能登鯖(鯖)や 若狭(若狭)さハらの しほめよく

越前うにの 味ハしらねど

能登越前八町奉行ノ名也

(現代語訳)

宝暦二年(一七五二)五月に酒井修理大夫様(八代小浜藩主酒井忠用)が

京都所司代になられた。

酒井修理大夫様は当国(若狭国。筆者は三方郡に在住)の殿様である。

官位は讃岐守。

京の町人の落首

よいさかい(いさかい/やい酒井)

京に(京に小吉を)こごとを

いハ(言わさぬき/讃岐)さぬき

ぶんご(豊後紋の(豊後は前任者の松平豊後守資訓。紋は圧政か)しぼりの

跡ハ(後は城代(忠用は前職が大坂城代)/上代)じやうだい

能登鯖(能登は京都西町奉行稲垣能登守正武)や

若狭(若狭鯖の(若狭は酒井修理大夫忠用))さハらの

しほめよく(塩目(人格)よく/しほめ(政治の力加減)よく)

越前うにの(越前雲母の(越前は京都東町奉行土屋若狭守正方)

味ハ(味は知らねど)しらねど

能登・越前は町奉行の名前。